

「子ども2人同乗自転車の動向」

2009/11/20

荒砥悦子

子ども2人同乗自転車とは

自転車の2人乗りは道交法違反ですが、未就学児に限って言えば違法ではありません。例えば、東京都では以前から、ヒモでしっかり固定され背負われた子どもは運転者と一体という認識でした。そして未就学児童であれば、あと1人乗せても良いとなっていました。こういった規則は、都道府県ごとに若干違っております。(実は都道府県によって成人でも認められている場合もありますが、特殊な自転車です。) だが、いくら未就学児とはいえ、背負わないで2人を乗せては違法でした。ところが2009年、この都道府県規則が順次改正されて、全国一律、幼児を2人まで乗せても良くなったのです。ただし、子乗せ用の基準を満たした新型自転車に限るとのことなのです。

これまでの経緯

警察では2007年ごろから、自転車のルール違反が多いから取締りを厳しくして交通ルールを周知徹底させよう、という流れになりました。例えば、携帯電話で話しながら片手運転、傘をさしながら片手運転などです。その折に、「子ども2人乗せも危険だから違反者を厳しく取り締まろう」ということになりました。ところが全国のお母さんたちが「子どもが2人いたら1人を家に置いて買い物にでかけなくちゃいけないのですか。自転車なしでは生活できないのに」と怒りの声をあげたのです。その声に対して警察や国交省、経産省などが耳を傾けてくれました。

子育てグッズ&ライフ研究会が関わってきたこと

研究会として経産省系の「利用者ニーズに基づく自転車の開発に向けた調査検討委員会」と警察庁も交えた「幼児2人同乗自転車検討委員会」の2つの検討会議に参加しました。そして全国のお母さんたちにヒアリングを行ったり、子ども2人同乗自転車の試作品に乗ったりして、母親、消費者としての視点から発言させていただきました。

その結果、十分な強度を持った自転車なら、子どもを2人乗せてもよい、そのときには子どもにヘルメットをかぶせるように強く求めよう、という方針が固まりました。

新製品は自転車産業振興協会が定める強度、制動性能、安定性など六つの基準を満たした自転車ということで安全性を保证する、自転車協会の「BAAマーク」や、製品安全協会の「SGマーク」を取得するのが普通です。検査の系統が2つあるという状況なので少しわかりにくいですが、これらのマークがついていれば選択の目安になります。

一方このマークは任意ですので、ついていないものでも販売者や消費者が「適している」と自主的に判断してしまう可能性があります。その場合は自己責任で乗っているということになります。こういった曖昧さを残すことは新型への乗り換えがスムーズにいかないばかりか、安全でない自転車に自己責任で乗り続けるという危険性もはらみます。

お母さんたちの自転車ライフ

ところで面白いデータがあります。

財団法人交通事故総合分析センターの出している「ITARDA INFORMATION」という冊子の2月号です。この中で、お母さん世代の自転車事故について調査した結果があります。サンプルが少ないので参考程度とは前置きしていますが、小さい子を乗せたお母さんの自転車が重大事故（死亡や重傷）を起こしているケースはお母さんが単独で乗っている時よりも少ない。これはお母さんたちが慎重に運転しているからではないか、つまり多少不利な条件であっても慎重に運転すれば重大事故は防げるのではないかとということです。

私自身も違反の頃から子どもを2人乗せて走りました。実際に命2つ乗せていると思えば、スピードもあまり出さず、車の少ない道を選んだり、雨の日は乗らなかつたり、リスクを軽減しようと思いました。他のお母さんを見ても、同様でした。

ただ、子どものヘルメットが当たり前になっているとは言いがたいです。ヘルメットは現在でも努力義務で被っていなくても罰則はありません。

10年前にこの研究会で調査した結果を見てみましょう。約260人からのアンケート結果で2%しかヘルメットを装着させていませんでした。その調査では今後被らせたい、と答えた人は約半分でした。最近の調査では平成20年1月に警察庁が全国の3000サンプルに対しアンケートを行った結果ではヘルメット装着率は約3割ということでした。努力義務では半分までがいいところなのかもしれません。

一方、子どもが同乗者の自転車事故では頭や顔の怪我が最も多いことを知っていただきたいです。

被らせないと自転車も走らせないなど、保護者の方には工夫して被らせるようにして欲しいと思います。その後自分で乗れるようになって、ヘルメットを被るように習慣づけたいものです。

本来はすべての自転車ライダーが被った方がいいのと思うのですが、女性では髪形がくずれるなど難しいところがあると思います。なるべく髪型を崩さない、見た目も悪くないヘルメットが発売されると被る人が増えるかもしれません。

ちなみに次に怪我が多いのは足です。特に後ろに乗せた子の怪我は足が一番多いです。転倒による打撲や巻き込みに注意しましょう。とはいえ、基準をクリアした補助椅子を正しくつけていればその被害が減るだろうと思います。

この新しい自転車はどのくらい浸透したのか

7月に販売を始めたメーカーに問い合わせたところ、2社とも売れ行きは好調ということでした。また、電動アシストつきの売り上げの伸びが普通の自転車よりも大きいそうです。ただ、全メーカーがそうかというはまだよくわかりません。また、地域やお店によっても違ってきます。それから今まで乗っていた自転車を買換えずにはいけないのか、といえば、警察ではそこまで厳密に考えていないようです。もちろん新型自転車に乗るのが望ましいが、移行期間を設け、今後買うのであれば新型自転車、現時点では以前のタイプに乗っていても自己責任でやむなしとする、という対応だと聞いています。

お母さんたちの本当のニーズ

現在、子ども2人同乗自転車について自治体レベルでは以下のような取り組みがあります。これらの取り組みでは、子どもにヘルメット装着を義務付けることが条件になっていたりします。高価な新型自転車とヘルメットを定着させる意味では一番効果的かもしれません。

レンタサイクルの提供（三鷹市、市川市...）

購入資金補助（前橋市、酒田市...）

また、利用者ニーズに基づく...の提言では次のようなことも取り入れています。

子どもの乗車人員のさらなる拡大の検討

自転車で走りやすい道路環境

- ・車道を走っても嫌がらせされない（警笛を鳴らされたり、悪質な場合は幅寄せや割り込みされることも。自転車レーンがあればそこを走りたい）

すべての面で満足できる自転車の開発に向けて今後も協力連携が必要

- ・子どものほか荷物も載せられるようなカゴの大きな自転車または牽引車等の付属アイテムが開発されると良いかも（自転車で走りやすい環境が大前提）
- ・2人乗せ自転車はどれも丈夫だが、重い。駐輪場で一苦労しそうなので、取り回しのしやすい自転車を。

幼児保育施設の周辺道路を送迎時間帯に限り路上駐車禁止および速度制限（あるいは通行禁止）を徹底する「子育てゾーン（仮）」の創設

またこれは私個人の周辺で多かった意見です。

カワイイ、カッコイイ自転車に乗りたい（本音の部分でけっこう重視しています）

自転車を選ぶ時に試乗したい（試乗させてくれるお店はそう多くないし、すべて試乗できるわけでもない）サイズの合わない自転車は疲れるし危険。

運転技術やルールを学びたい（まず、子ども1人を乗せるという時点で運転の仕方が変わる。そのうえ、2人になると体力も必要になる。どこかで運転技術を教えてくれたり練習させてくれるといい）特有の操作（子どもの乗せ降ろしなど）の練習

あまりメンテナンスしなくても良い自転車、パンクしない自転車が欲しい

使いやすい駐輪場を増やす（椅子が大きいので、普通の駐輪ラックに入れにくい。また、子どもを2人乗せたままスロープを移動できない）

以上のような声があることを関係機関に伝えたり、逆に安全な移動に関する情報を発信することで、子連れで安心安全に移動ができるような仕組み作りに貢献したいと思います。